



きゃぶす便り

介護・福祉の文具マーケット CAPS キャプス

きゃぶす大賞によせて

2025年を描く介護のキーワード「地域」



高齢化率が27%を超え、医療・介護費等社会保障給付費の急増を懸念し、来春、診療報酬と介護報酬の同時改定が行われます。また、来年8月から所得の高い高齢者が介護保険サービスを利用する際の自己負担が3割に引き上げになることや、総合事業への移行により今までなかった新しい取

組みがスタートすることなどで、ケア現場では人材確保や事業展開の取り組みが急務となっています。

この大きな節目となる年度をひかえて、今後の介護サービスのキーワードはまさに「地域」。そこで、介護事業所が知っておくべき3つの要点について考えてみました。

1. 介護専門職と地域住民がタッグをくむ時代に

在宅介護者の増加がますます進み、ケアスタッフの不足が深刻な現状ですね。そこで役割分担をすすめようという考えです。有資格者にはその専門性をふんだんに発揮していただき、重度の利用者への対応を。一方、調理、掃除、ゴミ出し、見守りなど生活支援に関することは、地域住民が担ってくださいということです。これがいわゆる「介護予防・日常生活支援総合事業」ですが、地域住民が担い手となることで住民自身が介護予防にも役立つというねらいも大切にしていきたい点です。

2. 介護、そして育児と生活支援をまるごと提供する時代に

今までご夫婦でお互いに介護しあうケースが多くなりましたのですが、介護期間が長くなると限界が。本格的に子世代が親を介護するようになります。とくに、30代半ばに子育てが始まる世代は、共働きしながら育児と同時に親の介護をするという「ダブルケア」がのしかかります。そのため、高齢者、障害者、児童を横断的にサポートする地域共生サービスで家族を支える仕組みが必要です。

3. 自立生活をめざす、願いをかなえる地域に

今まで認知症患者も、看取りケアも、在宅生活の限界点到来に、施設入所を選択してきました。今後は、暮ら

しの場所でその人の有する能力に応じ、自立した日常生活ができるように保険給付をすることとなっています。希望する暮らしをかなえる地域全体のケア体制、それは、単に要介護状態の軽減や悪化の防止だけではなく、生活全般を俯瞰してみる必要があります。

—では「地域の視点」とはどういうことでしょうか

今までは質のよい介護サービスを提供することをめざした、一人ひとりへのケア（個別支援）でした。それは提供する介護の個性の重視。いわば点のケアです。

これからは面へ。利用者だけでなくご家族や親戚、友人やおつきあいのある人々にも、疾病や介護予防、困窮課題など、多様な生活課題を抱える人が増えています。大切な人を支えながら同時に自分の困りごとを支援されるという、文字通り「支え合い」が行われます。つまり、地域に暮らす誰もが支える力になったり、支えられる存在になったりするため、面としての地域に支え合いの循環をつくる視点が求められています。

介護保険制度外のサービスは、その地域ならではのケア。住民の細かいところにまで行き届くサービスとして、高齢者だけでなく全世代から期待されています。今、こうした事業展開が各地で始まっていますが、制度の枠にとられない発想は地域住民のニーズから芽生えるものです。

そのために、事業所のサービスによって利用者の生活をよくするためのスタッフの技術力や伝える力をあげることや、日ごろから地域住民と出会う機会をつくり、地域から応援される事業所になっておくことが大切です。

capsでは、地域への取り組みは、一朝一夕には進めないからこそ、気づいた今から始めてほしいという思



いで、第2回きゃぶす大賞のテーマ「地域」をとりあげました。これからも安心して暮らせる未来をつくるためのみなさまのご活動を応援してまいります。

未来につなぐ人財育成のエッセンス③4

福利厚生を間違えると人は辞めていく! ~スタッフ募集作戦~



景気がよくなるとこの業界の人材不足はますます深刻になると聞きます。応募がピタッとなくなるとも聞きました。ほんとうに冷や汗ものですね。しかし、人が集まる事業所には引き続き集まり、いったん入社した人が長く働き続けるという「人に困らない」事業所もたしかにあります。理由は、スタッフのための福利厚生や働き方サポートがポイントのようです。

最初に残念な例。実績と経験のあるA介護事業所は、介護保険制度創設時を知っている50代管理者とほぼ同世代の常勤職員、パート勤務の数名は40代以上で運営。とても仲良く、和気あいあいな職場です。そこへハローワークからの紹介で30代の男性が入社しました。介護資格があり実務経験もある期待の新人です。ところが、半年たつてせっかく仕事に慣れたのに退職。理由は「つまらない」。育児や介護の両立ができるようなシフトの配慮、勤務スタイルも考慮してくれる職場ですが、その必要のない若い世代は、職場内外での研修や交流の機会がないため、頑張りたいのに頑張れなかったと言います。

つぎにB事業所の例。40代の中途採用と20代の大卒有資格者が同時入社しました。そこへ定年後の再雇用制度の創設やいまだに年功序列の状況で、20代の職員は未来が描けないと感じ、1年後に別の事業所へ移ったようです。

そして、C事業所は20~30代の若い世代の事業所。働くママを応援しようと、妊娠、出産、育児する父親母親職員に対して休日、シフトや夜勤の優遇をします。子どもの誕生日には休みやプレゼントや家族参加のイベントもあります。すると独身または子どものいない職員には、なにも優遇されないばかりか、残業や急な代休対応を強いられたり、イベント企画役のしわ寄せがきます。なかなか文句が言えずに辞めていく上、事業所には育児で忙しい職員ばかりが残ることになります。

いかがでしょう。つまり、スタッフが求めている福利厚生や働き方サポートがなく、その人にとって意味のない思いやりがふんだんにある職場は、残念ながら人が辞めていくということです。

経営者はなにをすればよいのでしょうか。まず、職員にとってなにがあれば働きたいのかをリサーチする必要があります。さらに、募集広告やリクルート用パンフレット、ハローワークの求人票にそれを具体的に記載しておくことが必要です。事業所にどんな人が求められているのかわかれば対策がうてま



▲パンフレットの例

すね。ということは、どんな人材が必要なのかを事業所自身がわかっているかどうかです。世代、保有資格と経験、常勤かパートか、夜勤が可能かなど。今後の事業所展開を考えたときに職員の傾向を把握することは重要なことです。

やってはいけないのは「誰でもいいから募集」。年代も経験も能力も、誰でもいいからとにかくいい人に来てほしいと思っただけではいませんか。いてもいなくてもいい職場環境であれば、「いい人」はいつしか「どうでもいい人」「いなくてもいい人」になってしまいます。今すぐ人材確保の準備をふりかえり、働く人と介護事業所の良好なご縁をつくっていきましょう。

世代別にみたあるとうれしい福利厚生と働き方サポート

- 若者世代 → 研修や部活動、交流会・・・
- 子育て世代 → 時短勤務、休日の確保・・・
- 40代から → 管理職候補、定年後の再雇用・・・



一般社団法人リエゾン地域福祉研究所 代表理事 丸山 法子

リエゾン地域福祉研究所 検索

(社会福祉士 介護福祉士 生涯学習開発財団認定コーチ NLP マスタープラクティショナー)



福祉 を語るあなたへ 贈る本

毎日かあさん

西原理恵子・著
毎日新聞社：出版



毎日新聞の大人気連載。育児は格闘技! ふだんの育児生活ののびのびと描くストーリーは、ひたむきに生きようとする人の姿が介護にも通じる感覚です。じわっと沁みる、笑いと涙の子育て漫画。ひと息つきたいときにオススメです。

※キャプスでは販売していません

きゃぶす便利 定期購読について 無料定期購読のご案内

~全国1万事業所で愛読いただいております♡~

申込方法 「きゃぶす便利定期購読希望」と明記の上、以下5項目を記載しFAXまたはメールにて申込みください。

①事業所名 ②担当者名 ③郵便番号・ご住所 ④TEL・FAX ⑤ご希望枚数(10枚まででお願い致します)

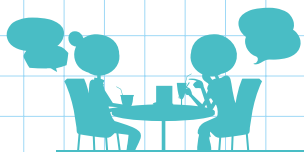
読者Voice

- ★スタッフと内容について話合ったり、ヘルパー研修でも活用しています
- ★内容がおもしろく、参考にさせて頂いています。書籍の紹介もうれしいです

Fax: 0120-47-1704 E-mail: caps-shop@tanishi.co.jp

介護の「わからない」、
「困った」に答える

第12回 キャプス相談所



「『いつも』『みんな』『ぜんぜん』…、 アバウトに表現する職員に困惑しています」

うちの困った職員のことです。報告をしてねと言うと「いつもしてます」と言い、報告が遅いと言うと「みんなと同じタイミングでしています」と言い、指示を出すと「いつも私だけやらされる」と言います。普段の会話でも、「いつも忙しい」とか、「みんなきついと言っている」とか、「ぜんぜん評価されない」というのがいつも口癖のようです。どう言えばきちんと理解しあう会話ができるのでしょうか？

私たちは無意識に会話のなかでつい「いつも」「みんな」「ぜんぜん」といった抽象的な表現を使ってしまいます。これらの言葉はコミュニケーションを行う上では便利とも言えますが、受け手によって解釈が違ってしまふ分、コミュニケーションエラーを招く言葉でもあります。

友達や家族といったプライベートな場面であれば、問題は起こらないかもしれませんが、仕事の場面では、**解釈の違い→信頼を失う→利用者さんの損失**、といった結果を招く可能性もありますので対策が必要ですね。

脳は莫大な情報量をインプットすることができますが、意識化できるのはほんのわずかです。一説では私たちがインプットしている情報量は2,000,000ビット/秒とも言われていますが、意識化できるのはその内の150ビット/秒ほどです。つまり、ほとんど意識化できないということですね。

そんな脳の構造を踏まえた時、使う言葉が抽象的なればなるほど、意識化はどんどんされなくなってしまいます。

—では、こうした職員さんへの言葉がけは
どうすればよいのでしょうか？

使う言葉を出来るだけ「具体的」にすることです。

例えば、「いつもしています」と言われたときには「いつもというのは、ほんとうにいつも?」「みんなと同じです」と言われたときには「みんなとは誰?」。といったように、抽象的になっている言葉を明確にする質問をします。これらの言葉はある意味、癖のようなものですので、こうして具体化することで、職員さんの言葉の訓練にもなります。

そして、上司であるあなたはこれに困惑されているようですが、じつはあなたご本人も無意識に「いつも」や「きちんと」など、抽象的な言葉を使っているかもしれませんね。正しく伝え合うためには指導者である、あなた自身も具体的に表現する努力が必要です。介護現場では誤解をすることなく関係者が正しく情報共有する必要があります。普段から具体的な言葉で伝え合う職場環境にしていきたいと思います。

質問の回答人



株式会社 Rensa 代表取締役 河辺 直樹
(NLP (神経言語プログラミング) LAB プロファイルトレーナー)

介護に関する悩みがございましたら
キャプス相談所へお気軽にお寄せください!
✉ caps-shop@tanishi.co.jp



社内勉強会 (スタッフ教育) に活用してみませんか? /

きゃぷす便り活用法

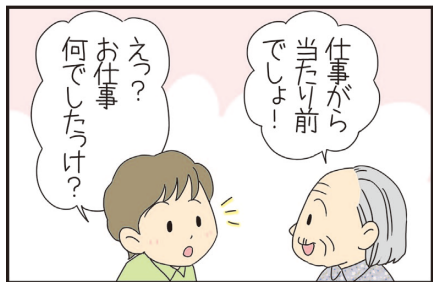
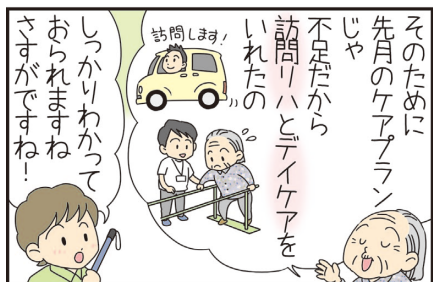
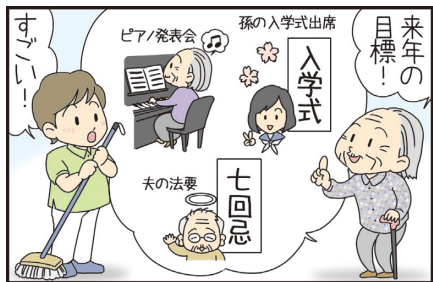
「巻頭記事」「未来につなぐ人材育成エッセンス」などを題材として、学んだことや自分に活かせることは…といった形の簡単なテーマを設定して、勉強会を行ってみるのはいかがでしょうか。思わぬ“気づき”や“課題”を発見するチャンスとなるかもしれません。



HOW TO

議題をあげる ⇒ 各自読みまとめる ⇒ 勉強会にて発表 or グループ討論 ⇒ 各自の気づき・まとめ

「わからない」「困った」がございましたら、上記コラムのキャプス相談所へのご応募もお待ちしております。



編集後記

編集者：丸山

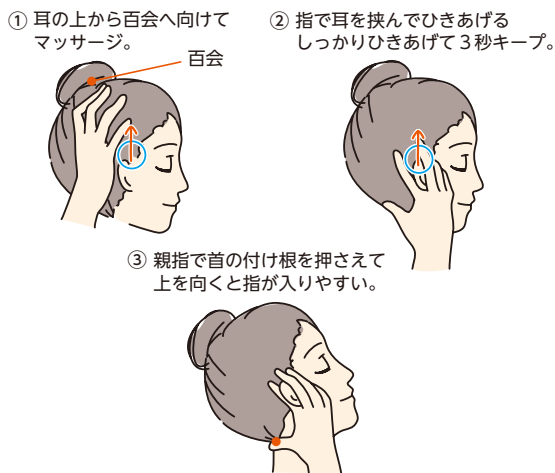
急な雨。コンビニのビニール傘が便利ですね。とてもしっかりしているので、マステをはったりして楽しく使っています。あちこちで使い捨てるのも見かけるのですが、そういうことが多いならと各地で傘の貸し出しサービスがあるようですね。必要な人は使ってもらってあとで返してねというしくみ。ところが、返却する人が少なく、廃止が続いているのだとか。感謝はめぐりめぐって戻ってくるものなのに。なんとなく人とのつながりも雨空のようでぼんやりしたまま。気持ちよく助け合える社会にしたいな。

ほつ ヘッドマッサージ
とお手入れ 夏の疲れ顔を素敵な笑顔に

暑さによる疲れやイライラで、眉間にしわが寄っていませんか。表情が硬くなっているときは、頭皮も硬くなりがち。老廃物がたまりやすくなり、表情も老け顔になってしまいます。また、夏の強い日差し、室内外の温度差によって頭痛や肩こりを引き起こす人も多いはず。夏に起こりがちな不調を和らげるマッサージを紹介しします。スッキリとした素敵な笑顔になれますよ。

■マッサージ

- ①両手でボールを持つように頭を両側から持つ。指を少し立て、少しずつずらしながら頭頂にあるツボ「百会」に向かってマッサージする。
※百会…頭頂部のほぼ中央に位置。両耳の上端を結ぶ線と、眉間の中央から伸ばした線が交わる点
- ②左右の耳を下から支えるように指で挟んで持つ。まずは上下に動かしてもみほぐしたら、しっかり引き上げたまま3秒キープ。
- ③親指を首の付け根にあて、頭を後ろに倒す。



取材協力／エステ・整体サロン MIU (東広島市)

スイカで美しく

スイカは90%が水分、残りの10%は糖分。水分補給にも優れ、カリウム、リコピン、ミネラル、ビタミンなども豊富に含む、まさに夏バテ対策食材といえそうです。また、野菜や植物の色には、疲れに関係すると言われる活性酸素を除去する“ファイトケミカル”が含まれ、シミ・シワを予防してくれる働きもあるそう。スイカを食べて、見て、暑い季節を美しく乗り切りましょう。



気になる数字

60代の歯周病率は約9割

歯周病患者の歯周ポケットから健常人の10～20倍もの酪酸が検出されることから、歯周病巣の酪酸が長期間にわたって脳内に取り込まれると、アルツハイマー病を引き起こす一因になることがわかりました(日本大学歯学部の研究チーム)。「歯肉炎」や「歯周病」の患者数は331万5000人。歯周病の有病率は20代が約7割、30～50代が約8割、60代は約9割にのぼります(平成26年度 国民医療費の概況/患者調査の概況より)。今後、高齢者だけでなく全世代で口腔ケアによる介護予防が注目されます。